公開実用 昭和52-25776



実用新案登録願(A)

昭和 50年 8 月 13日

3100円) 特許庁長官

素 夢 英 雄 殿

1. 芳室の名称

キー・ウケン シンパロウセイソウチ 郵 善 養 春 針 善 正 善 置

チパーマクハリ 千葉県千葉市事張町 5丁目 4 1 5番塩 オオーシマーケンージ 大 高 養 次

3. 实用新客食鹼出麵人

東京都中央区京橋2丁目5番地

株式会社 精

Τ.

舎

代表取締役 大

11 Ti

1:

遊

- 4. 代 週 た

東京都渋谷区神宮前2丁目6番8号

(4664) 并理 1: 最

移

連絡先 563-2111 内線223~6 担当 長谷川



5 1090 10 738

10 日 福 書

2 di

3 季() 但其較S)





考案の名称 超動兼指針修正装置

突用新葉登録請求の範囲

掲動自在に軸支された起動レバーと、上記起動レバーに設けられた起動用係合部をよび弾性アームと、上記起動レバーに突設された係止用柱と、上記起動用係合部と係合可能な起動車と、上記係止用柱と係合する指針修正用の針回し軸車と、上記外回し軸車を軸支している針回し軸と、上記弾性アームの係止手段とよりなる起動業指針修正整置。

考案の詳細を説明

本考案は時計駆動用モータなどの起動のために 輸列の一部に駆動力を付与することと指針修正す ることとを兼ねる装置に関するものである。

従来のこの種の装置は第1回に示すとおりであり、1は超勤レバーであり、2は起動レバーパネ

公開実用 昭和52—25776

である。針回し世章5を固着した針回し軸4には 針回しバネ5が巻回している。6は起動歯章であ り、起動用係合部1 aが係合可能である。このよ りに起動レバーバネ2をよび針回しバネ5が必要 であり、そのため組立作業が複雑で、生産性が悪 くこれがコストアップの一要因と去つている。

本考案は上記従来技術を改良するもので、その 一実施術を第2図にもとづいて説明する。

1 3 が植設されてかり、係止用柱 1 3 は針回し曲車 1 2 の下面に弾性アーム 7 Dのバネ力によつて 弾簧し、そのため針回し曲車 1 2 に常晦上方へバネ力を与えている。 1 4 は指針修正用曲車であり、針回し軸 1 1 を下方へ引き下げると針回し曲車 12 と噛合するものである。 1 5 は起動曲車であり、針回し軸 1 1 を下方へ引き下げるとき係止用柱13を介して起動レバー 7 が軸 8 を中心として反時計方向に揺動し、起動用係合部 7 a が起動曲車 1 5 と係合するものである。 1 6 は針回し軸 1 1 に突 設してあるストッパで、この軸の上昇移動範囲を 規制している。

この操作法は、指針修正するときまず針回し軸 の下端のツマミ(図示せず。)をつまんで下 方へ引き下げる。とのため針回し歯車12は指針 修正用歯車14と増合し、そとで針回し軸11を 回転させて指針修正を行たう。との針回し軸11 の下降にともたつて、保止用柱13を介して超動 レバー7は反時計方向に揺動し、超動レバー7の 起動用係合部7をは起動歯車15と係合する。そ

*)

公開実用 昭和52一25776

の長指針修正が終つて、針回し軸11を手放すと、 起動レバー7の弊性アーム7 bのパネカによつて、 針回し軸11かよび針回し歯車12はストッパ16 が軸受10に接するまで元位置に上昇復帰し、さらにとのパネカによつて起動レバー7 も元位置に 揺動復帰する。超動レバー7 が揺動復帰するとき、 起動用係合部7 aによつて起動歯車15 に反映計 方向の回転力を与える。このようにして指針修正 かよび駆動モーチへの起動力を付与するものである。このように指針修正かよび起動操作にかける 針回し軸11かよび起動レバー7の元位置復帰の ための駆動力は、上記弾性アーム7 bの弾性力に よつて行なわれるものである。

新上の適り本考案によれば、起動レバーかよび 針面し軸にそれぞれ復帰用のバネは不要であり、 そのため本装置の組立てはきわめて容易になり生 産性が向上し装置自体のコストダウンの上でもす ぐれた実用上の効果を有する。

図面の簡単な説明

第1回は従来側の正面図、第2回は本考案の一 実施例の正面図である。

7 … 超動レバー

7a. ... 起動用係合部

70… 弾性アーム

9 … 係止手段

11 " 針路 じ軸

12 " 針匯心實率

15 … 係止期柱

14… 修正附曲章

15. " 起動達車

以 上

公開実用 昭和52—25776

